資料4

地域公共交通確保維持事業に関する事業評価について

１　目的

熊本市地域公共交通総合連携計画に基づき国の「地域公共交通確保事業」「地域公共交通活性化・再生事業」を活用し、取り組んだ事業について評価を行い、国（九州運輸局）へ報告するもの。

２　これまで実施した事業

平成 21 年度　主要病院間の連絡路線（東バイパスライナー）の実証運行
　　バストリガー方式の検討（熊本・熊本学園・熊本県立の 3 大学）
　　モビリティマネジメントの実施（田迎地区）
平成 22 年度　モビリティマネジメントの実施（楠地区）
平成 23 年度　モビリティマネジメントの実施（熊本学園大学）
　　小型ノンステップバス車両の購入（ゆうゆうバス）

３　事業に対する評価

(1) 実証運行

東バイパスライナーの実証運行については、運行当初の利用者数・収支率が低かったため、バス停ごとに毎時同じ時刻で発着（例：毎時 5 分発着）したり、運行時間帯の見直しなど利便性向上に努めた。その結果、利用者数が平成 21 年 9～12 月には 1 便当たり 8.8 人・収支率 16.9%だったのが、平成 22 年 1～3 月には 1 便当たり 9.9 人・収支率 23.2%といずれも向上し、平成 22 年 4 月からの本格運行につながった。

(2)モビリティマネジメントの検討

モビリティマネジメントの検討については、田迎地区・楠地区で路線図や時刻表の配布等、路線バスに関する情報提供が公共交通利用の向上につながる結果が得られた。このため、本格運行開始後の東バイパスライナー沿線を対象に、運行ルートや時刻表を記載したチラシの個別配布や、事業所に対しては戸別訪問して、面談による情報提供を行った。その結果、現在は利用者数が 1 便当たり 11.8 人、収支率が 35.7%と実証運行時よりも向上し、一定の成果が得られた。また、平成 23 年度のモビリティマネジメントで使用した、路線図や時刻表を記載した冊子については、熊本学園大学が今後入学する学生に対し配布する予定であり、さらなる成果が期待できる。

（3）小型ノンステップバス車両の購入

小型ノンステップバスは、高齢者や障がい者等、誰もが利用しやすい車両であり、今回ゆうゆうバス（区バスのコミュニティ路線）として、平成 24 年度から運行する予定である。

４　協議会の開催状況について

平成 20 年度　4 回
平成 21 年度　3 回
平成 22 年度　2 回
平成 23 年度　3 回

本協議会で実施した事業については、協議会において審議を行い、協議会後は議事録や関係資料を熊本市ホームページにおいて開示をしている。